

## 若手研究者のキャリアパスの構築について(論点整理)

### 【これまでのまとめ】

現在、基礎研究の大切な担い手となり得る若手研究者が将来に不安を抱いている。将来への展望を持って現状を打破するためには、若手研究者に将来展望を如何に示すことができるのかという点が課題であり、その解決策として、研究者としてのキャリアパス(テニュアまでの道程)を見通せるシステムづくりが重要となる。

若手研究者のキャリアパス構築のためには、まず若手研究者のPI(Principal Investigator)をどのように育成するべきかが重要である。

PIに認定された若手研究者には、当初は「任期付」でも構わないが、最終的には、必ず「テニュア」までの可能性を明示した道筋が、複数・多様で、公平・明確に示されていなければならない。

現状から一気に当該制度に移行させることについては困難であると考えるが、そういうシステムを増やしていく努力が必要であり、資金配分機関からは、研究資金制度による大学への協調した制度支援が考えられる。

一方で、大学側は研究スペースの提供とサポート体制(責任ある指導者の配置)を構築するとともに、公正・透明でシステムティックな「テニュア」へのセレクションの仕組みについても整えることが必要である

このシステムを導入することによって、若手研究者に、その将来展望を示すことが可能となる。

### ※参考：テニュア・トラック(Tenure Track)とは

(第三期科学技術基本計画(平成18年3月28日閣議決定)より:抜粋)

○若手研究者が、厳格な審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組み

(科学技術振興調整費：若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラムより:抜粋)

○若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み

### 【若手研究者のPIとして活躍するためのモデルコース(自然科学系)】

○当初は「任期付ポジション(助教レベル)」として雇用され、一定期間、整備された研究環境(独立した研究スペースと自由に使用できる研究設備など)において、十分な研究資金(研究費、サポートスタッフ人件費)に加えて、専任のメンターによる指導を受けながら、裁量ある自立した研究経験を積んだ上で、大学側の国際的な基準による公正・透明な審査により、「テニュア付教員ポスト」に選定されるコース

○資金配分機関からは、「ジュニアPI」に認定された若手研究者向けのスタートアップ資金制度(研究費、サポートスタッフ人件費)の創設